

古屋秀隆准教授が 2020 年度大阪大学賞を受賞

大阪大学理学研究科の生物科学専攻および熱・エントロピー科学研究センター(兼任)の古屋秀隆准教授が、2020 年度大阪大学賞を受賞されました。本賞は「大学運営」、「教育貢献」、「若手教員」の 3 つの部門から成り、大阪大学の教員が大学運営、教育および研究上において本学に特に顕著な貢献をしたものに対し、その功績を讃えて表彰するというものです。

古屋先生は本賞の「教育貢献部門」にて、以下に示す「教養教育における生物学教育—学生実験と少人数セミナーでの取り組み」の業績で受賞されました。古屋先生は 10 年近く、全学共通教育機構の生物学実験について、毎年のプログラムの計画から、実習室の整備、予算の管理を担当してこられましたが、昨年度の新カリキュラム開始に向けての準備段階から実施までを主導し、旧カリキュラムの運営上の課題への対処、今後の低学年実習のあり方までを見据えた新実習テーマの導入など、新しい生物学実験の生まれ変わりに力を注いでこられました。また、古屋先生は基礎セミナー時代から現在の学問の扉まで、3 つのセミナーを開講し、積極的に低学年教育に貢献してこられました。低学年教育においては、一貫して文系・理系を区別しない教育方針に特徴があり、そこには申請者の教育者としての信念が感じられます。これは、申請者が小学生実習、府立高校 SSH 運営委員、高大接続 SEEDS プログラム運営委員などの大学生教育以外での活動、さらに地域の自治会会長の任にも携わっており、小学校、大学、および社会にいたる教育事情に明るく、教育の面から人間成長の過程を眺めてきた経験をよく生かしていると感じられます。

11 月 26 日に、吹田キャンパスにある大阪大学コンベンションセンターにて、本賞の表彰式が行われ、西尾章治郎総長(写真左端)から古屋先生(写真右から 2 番目)ら各受賞者に対し、記念の盾が授与されました。古屋先生の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(古屋秀隆)

